

社会福祉法人恩賜財団済生会有田病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【済生会有田病院の基本情報】

医療機関名： 社会福祉法人恩賜財団済生会有田病院

開設主体： 社会福祉法人恩賜財団済生会

所在地： 和歌山県有田郡湯浅町吉川52-6

許可病床数： 184床

（病床の種別） 一般 104床 回復期リハ 40床 地域包括ケア 40床

（病床機能別） 急性期 104床 回復期 80床

稼働病床数： 184床

（病床の種別） 一般 104床 回復期リハ 40床 地域包括ケア 40床

（病床機能別） 急性期 104床 回復期 80床

診療科目： 内科、外科、消化器科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、循環器科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、
脳神経外科、放射線科

職員数：平成29年9月1日現在（非常勤職員含む）

- ・ 医師 常勤20名 非常勤22名
- ・ 看護職員 看護師127名 准看護師16名
- ・ 専門職 薬剤師8名、臨床検査技師6名、診療放射線技師6名、
理学療法士18名、作業療法士13名、言語聴覚士3名、
管理栄養士3名 社会福祉士 3名
- ・ 事務職員 39名
- ・ その他職員 47名

【１．現状と課題】

① 構想区域の現状

済生会有田病院が属する有田保健医療圏は和歌山市から車で約 30 分～40 分の近距離にある小さな保健医療圏（人口約 7 万 3 千人）であり、過疎化と高齢化が進んだ地域である（図表 1）。また、一般医療、救急医療ともに和歌山市内の 2 つの巨大病院（医大病院、日赤医療センター）に患者流出がみられる医療圏である（図表 2）。この小さな医療圏に、公立病院 1 病院（有田市立病院）、公的病院 1 病院（済生会有田病院）、民間病院 3 病院と県立精神科単科病院が存在する。一般疾患を扱っている公立、公的、民間の 5 病院は全て中小規模（病床数 200 以下）の病院である（図表 3）。

② 構想区域の課題

一般疾患を扱う 5 病院のなかで、有田市にある公立病院（有田市立病院）と有田郡に位置する公的病院（済生会有田病院）が地域の急性期医療を牽引してきた歴史があるが、近年有田市立病院が極端な医師不足となり（一時は内科常勤医 1 名）、重度の診療機能不全に陥った。現状は医師数も回復し、診療機能不全も改善がみられるが、まだ不完全な状態が続いている。和歌山県地域医療構想における必要病床数は、医療機関所在地ベースで全て統一的に計算されたため、有田医療圏の急性期病床数は 2014 年の 341 病床から 146 病床に大幅削減（57%削減）される結果となった（図表 4）。これは有田市立病院が重症な診療機能不全に陥った時代に計算された結果、極端に少ない必要病床数となったものである。患者住所地ベースで計算すると、有田医療圏の急性期必要病床数は 245 床である。医療機関所在地ベースで得られた 146 病床と患者住所地ベースの中間値 196 病床程度は、有田医療圏の急性期病床数として必要であると判断される。有田医療圏から時間的に近い距離にある和歌山市の巨大病院（医大病院約 30 分、日赤医療センター約 40 分）に対する、住民の医療ニーズは高く、有田医療圏から和歌山医療圏に患者流出する最大の理由となっている。有田医療圏で全ての医療を完結するのは、地域住民の医療ニーズを考慮すると不可能であるが、一部領域における高度医療の導入やきめの細かい救急医療の実現などで、患者流出の減少をはかる必要がある。

③ 自施設の現状

平成 28 年 11 月に医療型療養病棟 40 床を地域包括ケア病棟に転換した。一番大きな理由は急性期病棟の病床稼働率に比し、療養病棟の病床稼働率が低すぎたことである（図表 5）。現在は 7 : 1 急性期 3 病棟（計 104 病床）、回復期リハビリ病棟 1 病棟（40 病床）、地域包括ケア病棟 1 病棟（40 病床）で構成される 184 病床の急性期型ケアミックス病院で、付設の老健施設もあり、施設内で連携した診療・介護連携が可能である。急性期病床では、平均在院日数の大幅な短縮傾向があるにもかかわらず高い病床稼働率を保っているが、回復期病棟（回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟）の病床稼働率は低い傾向にある。

④ 自施設の課題

有田医療圏から和歌山医療圏への患者流出を防ぐ狙いから、得意な分野での高度先進医療の育成を行ってきた。現在 13 診療科を有するが、特に高度先進医療に対応した 3 診療センターを立ち上げている。診療センターとは、隣接する海南市、海草郡、御坊市、日高郡などの医療圏では、圧倒的優位に立ち、和歌山医療圏の医大病院や日赤医療センターにも一部の領域で卓越しているものである。そのために優秀な医師のリクルート・育成、医療機器への投資を行ってきた。消化器病センターは、患者に負担の少ない内視鏡手術や腹腔鏡手術で日本の消化器外科をリードしてきた医師を医大からスカウトし実現できたものであり、和歌山医療圏からも紹介患者が訪れ、手術件数も順調に伸びている（図表 6）。人工関節センターは県内で最初の骨髄バンクができたのを機会にセンター化し、多数の人工関節手術を行っている。リハビリテーションセンターはリハビリ専門医と約 40 名のセラピュストからなり、特に嚥下障害に取り組んでいる。リハビリ専門医は、嚥下領域で国際的な業績があり、嚥下認定看護師や言語聴覚士が活躍している。今後、診療センターの更なる高度化と共に、積極的な広報活動が必要である。救急医療に関しては、医師へのインセンティブ、副当直制度の設置、などにより救急受入れ件数の増加がみられているが、更なる意識改革が必要である。救急医療を充実させる目的で、平成 30 年に放射線技師の当直体制を強化する。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

有田保健医療圏の急性期医療、回復期医療を担当する。そのためには、高度先進医療（消化器病センター、人工関節センター、リハビリテーションセンター）の更なるレベルアップ、救急医療・一般急性期医療・回復期医療の充実が求められる。

② 今後持つべき病床機能

有田市立病院が病院のダウンサイジング、急性期病棟を地域包括ケア病棟に転換し、更なる病床数削減を打ち出しているため、地域ニーズを考えると、当院は有田医療圏の急性期医療を担う中核病院となる必要がある。当院では、急性期の病床稼働率が回復期（回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟）の病床稼働率より高いので、地域ニーズは急性期医療に高いと判断される。そういう地域ニーズを考慮し、急性期病床は現状の 104 病床を維持する。回復期病床の現在の病床稼働率は低いですが、当院の進めている病診連携強化・回復期病床周知のための広報活動などにより病床稼働率の上昇が期待され、当院のケアミックス機能を保つことも患者様には重要であるので、回復期病床の 80 病床も維持する。当院に対して、有田医療圏では慢性期医療の地域ニーズが少なく、平成 28 年 11 月に療養病棟を地域包括ケア病棟に転換したばかりであり、今後慢性期病床の保有を検討する予定はない。

③ その他見直すべき点

特記事項なし。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	104床		104床
回復期	80床		80床
慢性期			
(合計)			

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;"> 集中的な検討を促進 2年間程度で </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #f9a825; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">第7期 介護保険 事業計画</div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">第7次医療計画</div> <div style="background-color: #f9a825; padding: 10px; text-align: center;">第8期 介護保険 事業計画</div> </div> </div>
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	消化器病センター、人工関節センター、リハビリテーションセンター 内科、外科、消化器科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、循環器科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科	→	消化器病センター、人工関節センター、リハビリテーションセンター 内科、外科、消化器科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、循環器科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科
新設		→	訪問診療センター 総合診療科、精神神経科、麻酔科
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 82%
- ・ 手術室稼働率： 50%
- ・ 紹介率： 50%
- ・ 逆紹介率 40%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 53%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： 0.3%
- その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

特記事項なし

図表 1

有田郡市医療圏の人口推移

《総人口》

単位：人

	2005年	2010年	増減	2015年	増減	2017年	対2005年
湯浅町	14,742	13,210	△ 1,532	12,200	△ 1,010	11,801	△ 2,941
広川町	8,071	7,714	△ 357	7,224	△ 490	7,019	△ 1,052
有田川町	28,640	27,162	△ 1,478	26,361	△ 801	26,105	△ 2,535
有田市	32,143	30,592	△ 1,551	28,470	△ 2,122	27,646	△ 4,497
計	83,596	78,678	△ 4,918	74,255	△ 4,423	72,571	△ 11,025

《年少人口(0～14歳)》

	2005年	2010年	増減	2015年	増減
湯浅町	13.2%	12.7%	-0.5%	11.9%	-0.8%
広川町	13.6%	13.4%	-0.2%	12.7%	-0.7%
有田川町	14.5%	13.7%	-0.8%	12.9%	-0.8%
有田市	14.6%	13.4%	-1.2%	11.8%	-1.6%
計	14.2%	13.4%	-0.8%	12.3%	-1.1%

《生産年齢人口(15～64歳)》

	2005年	2010年	増減	2015年	増減
湯浅町	61.9%	59.3%	-2.6%	55.3%	-4.0%
広川町	62.8%	60.1%	-2.7%	55.7%	-4.4%
有田川町	56.7%	56.0%	-0.7%	55.3%	-0.7%
有田市	61.8%	59.6%	-2.2%	56.6%	-3.0%
計	60.2%	58.4%	-1.8%	55.8%	-2.6%

《老年人口(65歳以上)》

	2005年	2010年	増減	2015年	増減
湯浅町	24.8%	28.0%	3.2%	32.8%	4.8%
広川町	23.6%	26.5%	2.9%	31.6%	5.1%
有田川町	28.9%	30.3%	1.4%	31.8%	1.5%
有田市	23.6%	27.0%	3.4%	31.6%	4.6%
計	25.6%	28.2%	2.6%	31.9%	3.7%

図表2

和歌山二次保健医療圏患者流入出図

二次保健医療圏名	人口(人)	流出率(%)	流入率(%)
和歌山	425,220	7.7	19.9
橋本	88,342	51.7	19.8
那賀	116,068	35.6	23.3
有田	74,255	37.6	10.4
御坊	63,603	19.6	29.0
田辺	128,161	14.8	7.8
新宮	67,930	16.8	21.1

※人口は平成27年国勢調査による。

※流出率・流入率は平成26年「患者調査」による。

図表3


有田保健医療圏

平成29年9月現在

医療機関名	住所	病床数	急性期	回復期	慢性期	その他
有田市立病院	有田市宮崎町6番地	157床	54床	99床	0床	4床
済生会有田病院	有田郡湯浅町吉川52－6	184床	104床	80床	0床	0床
西岡病院	有田郡有田川町小島278－1	120床	32床	28床	60床	0床
有田南病院	有田郡有田川町小島15	71床	20床	6床	45床	0床
桜ヶ丘病院	有田市箕島904	99床	0床	0床	99床	0床
こころの医療センター	有田郡有田川町庄31	300床	0床	0床	0床	300床
計		931床	210床	213床	204床	304床

図表4

有田圏域における現状と必要病床数推計等

医療機能	2014年7月1日現在の病床数		2025年の必要病床数
高度急性期	0		0
急性期	341		146
回復期	94		148
慢性期	263		201
小計	698		495

(参考) 「必要病床数」推計(地域医療構想会議で検討されたもの)

圏域名	医療機能	2014年病床数	2025年度必要病床数 医療機関所在地ベース	2025年度必要病床数 患者所在地ベース
有 田	①高度急性期	0	25.2	65.4
	②急性期	341	146.6	245.4
	③回復期	94	147.7	227.4
	④慢性期	263	184.9	173.2

図表5

済生会有田病院の機能別病床稼働率(療養⇒地域包括ケア転換前 直近1年間)

平成27年10月～平成28年9月13日

病床区分	病床稼働率 (%)												
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月※	平均
一般急性期病棟 (104床)	88.8	74.6	80.6	89.4	94.9	83.0	78.4	84.0	72.0	79.4	88.6	90.3	83.7
回復期リハビリ病棟 (40床)	69.5	77.3	84.0	89.6	91.3	90.2	84.8	81.5	79.2	73.7	68.3	86.0	81.3
療養病棟 (40床)	83.1	76.8	55.6	65.8	87.4	88.5	73.2	62.9	47.2	46.0	68.5	58.8	67.8

※9月13日迄

急性期病棟の平均在院日数

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
平均在院日数	16.9	15	13.9	13.9	13.6	13.7	12.9	11.7

図表6

外科手術全身麻酔症例数

	全麻手術
H 25. 1 ～ H 25.12	117
H 26. 1 ～ H 26.12	108
H 27. 1 ～ H 27.12	133
H 28. 1 ～ H 28.12	181
H 29. 1～H 29. 9.27 (9か月間)	164

外科紹介患者数

紹介患者数(初診時)(人)			
	26年度	27年度	28年度
外科	217	214	313

